

しまねを探究する！

— 島根県技術士会 新年例会・30周年記念式典 —

島根県技術士会では、会員の技術力向上と技術を通じた地域貢献を目的とした研究活動を行っており、毎年、この時期に研究成果の発表会を開催しています。

今回は、しまねの自然環境や地域振興および文化遺産のほか、東日本大震災の復興など多岐にわたるテーマにより取り組んだ成果を報告します。

また今年も、島根県技術士会が発足して30年の節目となることから、記念行事も併せて行います。つきましては、私共の活動を広く一般の皆様方にも知って頂きたいと、下記のとおりお知らせします。

- 日時：平成27年1月31日(土)10:30～19:30
- 場所：松江市西嫁島町 ホテル宍道湖

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 次 第 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

1. 開会挨拶（研究部会長） 10:30～10:35

2. 分科会発表（鳳凰の間）

(1) 水資源・水環境分科会 10:35～11:05

香川県の豊稔池は、日本で唯一の石積式マルチプルアーチダム（5連式）で、「ヨーロッパの古城を思わせる」と言われており、平成18年に国の重要文化財に指定された。また同県の満濃池は、西暦700年ごろに築造され、その後、僧空海や西嶋八兵衛などの再築を経て、現代に嵩上げをした日本最大の灌漑用ため池である。これらのため池に係る技術について視察報告をする。

(2) 島根の地域振興研究分科会 11:05～11:35

出雲市佐田町の「八雲風穴」を対象に継続中である風穴内外の温度観測に加えて、佐田町全戸にアンケートを行い、風穴の実態調査を行った。風穴の現地確認では佐田中学の生徒にも参加して頂き、また来年度は、佐田町で開催予定の「第2回 全国風穴小屋サミット」への参画が決定した。これら「風穴研究」を通じた地域振興活動の結果を報告する。

(3) 江の川橋梁群調査研究分科会 11:35～12:00

一級河川「江の川」は橋梁の博物館のごとく、様々な構造の橋梁が架かっている。これらの多様な橋梁の状況と、橋梁群を取り巻く周辺環境の歴史を紐解くために、「江の川の舟運」、「三江線の歴史」、「浜原ダム建設の歴史」についての調査結果を報告する。

【昼休憩】 12:00～13:00

会長30周年記念行事の案内 13:00～13:10

(4) 庭園文化研究分科会

13:10~13:40

個人邸の庭など、当地に住む人でさえ存在を知らない貴重な庭園がある。地域の財産として守り後世に伝えて行かなければならない。吉賀町・益田市にある非公開の庭園を拝観することができたので、その状況と、これまでの県内の庭園を対象にした調査結果を報告する。また、昨年度報告した”島根の庭園マップ”をweb上で一般公開したので、その概要について報告する。

(5) 今福線研究分科会

13:40~14:10

「幻の広浜鉄道 今福線マップ」の完成を機に、今福線研究分科会活動のPRのため浜田市長を訪問したことから、浜田市や今福線沿線の自治会を巻き込んだ「シンポジウム」の開催が決定した。幻で終わった鉄道が今まさに、人と人、地域と地域をつなぐ「お宝」として蘇ろうとしており、これまでの活動結果を報告する。

(6) 生物多様性研究分科会

14:10~14:40

歴史ある意宇川流域の神社をめぐり、大元神社に関する文献等を通じて、神社（ご神木）と地域の自然との関わりや、生物多様性の価値について考えたことを報告する。また、出雲国風土記や花粉分析に関する研究成果を踏まえて、奈良時代における意宇川下流域の景観について想像してみたので、その概要について報告する。

(7) 防災部会（東北状況含む）

14:40~15:30

昨年8月20日の広島土砂災害から私たちは何を学ぶべきか。被災地と同様の地質が広く分布する島根県も他県の惨事と済ますわけにはいかない。8/20発災後、現地視察の結果や収集した情報をもとに、平成11年6月29日の広島を襲った土砂災害と比較検証しながら、防災・減災に向けて取り組むべき課題について報告する。

併せて、東日本大震災から3年9ヶ月半を経過した東北沿岸の津波被災地の現状について、代表的な沿岸被災地のインフラ復旧等の状況を中心に紹介し、被災地がかかえる課題について報告する。

【休憩】

15:30~16:00

3. 30周年記念式典（鳳凰の間）

16:00~17:00

【休憩・移動】

17:00~17:20

4. 祝賀会（高砂の間）

17:20~19:30